

者実者敏員名
任正任勝集3
責集責他編集
行谷集川他編
発古編石

SEOS便り

平成27年度 新事業年度の抱負

常務取締役 古谷 正実

社員の皆様！毎日の勤務お疲れ様です。新事業年度のスタートに当り、私の抱負を述べさせていただきます。

本年は、内閣も安定政権となり、政治面、経済面も概ね順調に推移するものと思われ、政治面では、安全保障政策や原発再稼働問題が争点となるでしょうし、経済面では、TPP問題や中小企業の底上げ対策が課題かと思われま

す。私達の業界は、低価格競争、労働力不足、そして消費税増税の影響もあり、全く景気の回復感がないのが実状だと思います。また各社が生き残りをかけて、合併を模索する方向は更に強まるものと予測しております。このような環境下、当社は27年度も増収増益の事業計画を、次の事項を基軸に策定致しました。

- 新規顧客の拡大
- 既存顧客の維持
- 財務体質の強化
- 幹部社員教育の推進
- また経営課題は
- 官公庁物件の死守
- 不採算部門の撤退
- 2支社の黒字化
- 労働力不足解消策の実行

です。以上の事柄を具現化する為に重要な事は、皆様が「会社を少しでも良くして行こう！」という強い意志を持つ事なのです。そして、皆様のリーダーである私以下管理職が自ら考え、結論を出し、自ら先頭に立ち、実行する事なのです。本年の干支の羊のごとく、皆様と力を合わせ、会社の永続的な安泰を目指して参ります。皆様の御理解、御協力を宜しくお願い致します。



取締役管理本部長 石川 勝敏

今月より新事業年度がスタートしましたが昨年度の業績を振り返って見ますと、まず、GMCは消費税改定前の駆け込み需要による大型臨時工事と新規案件の獲得により、年間を通して好調に推移しました。お陰様で売上、営業利益共に目標を達成しました。一方、AGSについては、前半戦は伸び悩んだものの臨時警備が相次いで受注できたことから、利益目標は余裕をもって達成することができました。皆様のご健闘に心より感謝する次第です。

さて、新年度に目を向けて見ますと両事業部の状況は次の通りです。

- GMCは
 - 一、官庁物件の閉館や民間固定物件の解約等により、固定売上が大幅減額となること
 - 一、現状では大型臨時工事の見込がないこと等
- 近年好調を維持してきたものが一転して大変厳しい状況となっております。官公庁案件の死守はもとより、固定案件の獲得に向けた営業が一層求められています。
- AGSは
 - 一、現状のところ売上減となる物件はなく不安材料はないものの、将来に繋がる新規固定案件の見込が相変わらず少ないこと
 - 一、人手不足により、人員補充が遅々として進んでいないこと

一、社員の定着率が改善されていないこと等課題は山積しているのが現実です。いづれにしても両事業部共に取り巻く環境が厳しい事に変わりありません。全社を挙げて新規固定案件の獲得と業務改善により、熾烈な企業競争を勝ち抜いて事業継続を目指す所存であります。皆様のご理解とご協力をお願いする次第です。



取締役GMC事業本部 本部長(兼)施設部長

白濱 実幸

平成27年、新事業年度が始まりました。昨年度は皆様方の絶大な御協力により、増収増益という結果で締めくくることが出来ました。しかしながら27年度は、長年続けてきた官公庁物件の閉館、また26年度期中における民間固定物件の解約・減額という、大変厳しい要因を抱えながら、増収増益を目標に事業計画を進めていかなければなりません。今後の安定した持続的成長を構築する為に本年度の基軸を申し上げます。

営業力の強化。具体的には新規固定案件の獲得です。これなくして安定成長はありません。更に既存顧客へ新たな提案をすることにより、更なる顧客満足度の向上を図って頂きたい。

収益基盤確立に向けて組織の再構築。ビルメンテナンス市場の拡大が鈍化する中、顧客の争奪戦が益々激しくなってきました。この様な環境下で利益を生み出していくには、組織における労働生産性の向上が欠かせません。各部門、今一度組織の活性化を図って頂きたい。

管理監督者教育、資格取得推進による次世代幹部、後継者の人材育成。

以上三点、持続的成長を可能にする為に、確実に進めていかなくてはなりません。本年度は大変厳しい環境下ではありますが、皆様方の御理解と御協力を宜しくお願い致します。



AGS事業本部 本部長 續 美明

平成26年度AGSは、警備業界を取り巻く環境（低価格競争、最賃のアップ、労働力不足等々）の厳しい状況の中、増収増益を目標に事業を推進致しましたが、売上については目標に届かず未達、営業利益は辛うじて達成することが出来ました。皆様のご協力に深く御礼申し上げます。

平成27年度も更に厳しい環境の下、増収増益、適正利潤の確保に向け事業を推し進めてまいります。経営課題をより具現化するため、組織の活性化、情報収集力の強化と共有化、報連相の徹底、ホスピタリティの徹底等をより迅速に実践し、お客様の信用信頼を図ってまいりますので、どうぞご理解と更なるご協力を宜しくお願い致します。



経理部長 砂田 隆

平成27年度は羊年であります。「羊」に「羽」をつけて空高く飛び上がる「飛翔」の年にしたいと考えています。「飛翔」の年にしたいと考えています。チャンスを活用し持続可能な成長・発展を遂げられるよう業務に邁進致します。

経理部におきましては、「繋ぐ」・「ワクワクする職場環境づくり」の二点をスローガンに全力で取り組んで参ります。今年度の具体的な大目標としましては、AGSの財務体質の強化です。27年の下半期には、借入金「0」を目指したいと思っております。各事業部支社そして皆様のご協力をお願い致します。



常駐保安部長 寺本 憲生

平成26年度は、私自身常駐保安部へ異動して1年目、新しいお客様や現場隊員との新たな出会いもあり、非常に充実した1年でありました。しかしながら、営業成績の方は申しますと、営業利益は辛うじて目標達成を果したものの、売上に関しては残念ながら常駐保安部、AGSともに目標達成なりません。今年度は、常駐保安部が核となり、AGS全体を牽引していく年もありますが、人員不足・人材難の状況ではありますが、このよくな時代だからこそ、全員が一致団結し、明るく元気に頑張っていく必要があると思っております。

新規固定物件の獲得と人材育成を今年の主たる目標として、今年も引続き、常駐保安部及び機械警備部並びに他部門の方々との更なるご協力を宜しくお願い致します。



環境部長 児嶋 和彦

平成26年度も瞬く間に終了し、早くも新年度が始まりました。昨年環境部では2年ぶりに市ヶ谷会館の清掃・ベトナムメイクを落札し、当初人員不足からAGSの幹部の皆さんにも業務のお手伝いを頂き、まさしく全社一丸になって取り組みました事が昨日のように思い出されます。また3月10日にこちらの入札があります、全力を挙げて取り組みます。

新年度は部としてかなりハードな売上予算となっております。あらゆる手段を駆使して予算を達成するよう部一同頑張っております。



機械警備部長 中村 宏

先月22日に実施された東京マラソンでは、警察・警備・ボランティアが一体になり1万人を超す警備体制を敷き、「安全・安心」なイベントを行いました。今後、5年後の東京オリンピック・パラリンピックに向けて様々な現場で警備員の需要が増加します。反面、少子高齢化により、警備員の人員不足も深刻な問題です。より高度な質の警備が求められ、機械警備の進化にも対応していかなければなりません。

このよくな状況下で、今年度の私自身の課題として都内周辺を含めた専門学校を訪問して、就職担当の方々に直に全日本ガイドシステムをアピールし、一人でも二人でも採用に至れるよう努力してまいります。従業員の皆さんも友人知人をお是非紹介してください。よろしくお祈り致します。



埼玉支社長 岩澤 利彦

埼玉支社長を再び拝命してから、丁度2年が経過しました。平成26年度は、AGSにおいて大型解約が延期になったという幸運もありましたが、GMC埼玉を含め、全般的にはあまり良い成績ではなかったと反省しております。しかしながら以前からの懸案事項であった埼玉支社移転を、様々な方のお力により昨年8月に成し遂げることができました。

新年度は、この移転の際に知り合うことができた、さいたま市議会議員とその人脈も、今後の営業拡大に繋がっていくと考えております。



千葉支社長代理 岡野 勇

平成27年度の千支は乙未年です。私も未年で今年60歳の年男です。

新事業年度の目標達成に向け、既存物件の契約を死守し、新規物件受注に繋がる営業推進を図る為、全職員とのコミュニケーションを密接に取り込み、情報収集をしてSEOS受注に努力します。また人材確保、指導教育、人材定着の為、全職員による親切丁寧なしっかりとした対応を心掛けます。

本年も皆様の御協力を宜しくお願い致します。



横浜支社長代理 阿部 良一

平成26年度につきましては、AGS・GMC共に不本意な結果に終わってしまいました。責任者として誠に遺憾であります。原因としましては、経費の削減が十分に出来なかった事が挙げられます。

新年度におきましては、AGSにて不採算部門となっていた機械警備の待機所閉鎖が完了し、気持ちも新たに巻き返しを図ってまいります。

GMCにおきましては4月より新規スタートもあり、効率良く計画を立て進めていく所存です。



